

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|---------------|
| 学校名 | 鹿児島純心女子短期大学 |
| 設置者名 | 学校法人鹿児島純心女子学園 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|------|--------------------|-----------|-----------------------|---------------------|----------|----|-------------|------|
| | | | 全学 共通 科目 | 学部 等 共通 科目 | 専門 科目 | 合計 | | |
| 生活学科 | 生活学専攻 現代ビジネスコース | 夜・通信 | 7 | 0 | 7 | 14 | 7 | |
| | 生活学専攻 デザイン表現コース | 夜・通信 | | | 7 | 14 | 7 | |
| | こども学専攻 | 夜・通信 | | | 7 | 14 | 7 | |
| | 食物栄養専攻 | 夜・通信 | | | 7 | 14 | 7 | |
| 英語科 | | 夜・通信 | | 0 | 7 | 14 | 7 | |
| (備考) | | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| 公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「実務経験のある教員等による授業科目一覧」で案内 |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|---------------|
| 学校名 | 鹿児島純心女子短期大学 |
| 設置者名 | 学校法人鹿児島純心女子学園 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公式サイトで学内外に公表

<https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/about/>

本ページの「情報の公表」において「役員名簿」として公表

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|--------|------------------------|---------------------|
| 非常勤 | 会社役員 | R3. 4. 1～ R7. 3. 31 | 財務 |
| 非常勤 | 弁護士 | R3. 4. 1～ R7. 3. 31 | 法務 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|---------------|
| 学校名 | 鹿児島純心女子短期大学 |
| 設置者名 | 学校法人鹿児島純心女子学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|--|---|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>① 教務課及びカリキュラム委員により10月までに「シラバス作成要領」を見直し、改善案をカリキュラム委員会に提案して、新年度のシラバス作成のためのマニュアルを完成させる。</p> <p>② 11月又は12月の教授会において、カリキュラム委員会で承認された「シラバス作成要領」を報告・配布し、シラバス作成を依頼。</p> <p>③ 2月、シラバスの第三者チェックを実施。</p> <p>④ 3月中旬までにシラバスの第三者チェックで指摘された箇所を訂正し、次年度入学生のシラバスを学内外に公開する。</p> | |
| <p>授業計画書の公表方法</p> | <p>公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「シラバス」で案内</p> |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>① ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ツリーを策定し、関連科目を配置する。</p> <p>② 各ディプロマ・ポリシーのもとに配置された科目の到達目標を設定し、その到達目標に対する到達度を計るための評価の方法等を定めてシラバスに記載する。シラバスに記載した成績評価方法及び成績評価基準は単位認定規程に基づいている。</p> <p>③ ①及び②については、学生便覧等で学生に案内するほか、初年次教育科目「アカデミックリテラシー」の中で説明している。</p> <p>④ 以上の取組により学期末に単位認定試験を実施し、単位認定を行っている。単位認定試験実施後、科目担当者は自身が付けた学生の成績評価と履修者の自己評価を比較、また、授業アンケートの結果を参考に授業改善を図る。各学科・専攻・コースは、ナンバリング、科目の水準及び成績評価をもとに科目間の成績評価基準の平準化に向けて検証を実施する。</p> | |

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ① 成績評価に付与するGPは次の表のとおりである。
ただし、成績評価において素点がない認定科目についてはGPを付与せず、GPA対象外とする。また、「失格」となった科目は、GP「0」を付与する。
- ② GPAは次のとおり算出する。
GPA=(全履修科目のGP×単位数)÷(全履修科目の総単位数)
GPAは、小数点以下第3位を四捨五入する。
- ③ 各学期末にGPAを記載した「学業成績・単位修得通知書」とGPAの計算方法を案内した資料を学生の保護者宛に郵送している。

| 判定 | 成績評価 | | GP |
|-----|------|---------|---------|
| 合格 | 秀 | 90～100点 | 4.0～5.0 |
| | 優 | 80～89点 | 3.0～3.9 |
| | 良 | 70～79点 | 2.0～2.9 |
| | 可 | 60～69点 | 1.0～1.9 |
| 不合格 | 不可 | 0～59点 | 0 |

なお、学生は、教務システムにログインし自分の成績状況を確認する際、GPAの分布状況も把握することができる。同様に教職員もGPAの分布状況を確認できる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

公式サイトで学内外に公表
<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「GPAの算出方法」で案内

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

◇卒業認定・学位授与の方針

学生が卒業時、身に付けるべき資質・能力は次のとおりである。

1 全学共通

① 知識・技術・理解

【豊かな人間性と共生の精神】

・豊かな人間性と国際人として必要な教養を身に付け、共生の社会を築いていくことができる。

② 汎用的技能

【人生を切り開く力】

・社会的・職業的活動に必要な力を身に付け、社会や環境の変化に柔軟に対応して自らの人生を切り開くことができる。

③ 態度・志向性

【主体的に学ぶ力】

・自らの心身を健康に保ち、主体的で深い学びを継続することができる。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【社会のために尽くす力】

・地域理解と専門性を統合的に活用し、使命感を持って、社会的役割を果たすことができる。

2 生活学科生活学専攻現代ビジネスコース

① 知識・技術・理解

【現代のビジネス社会の理解】

・絶えず変化する現代のビジネス社会に対応するために必要な基本的知識・スキルを身に付けている。

【専門的実務実践力】

・専門的実務に必要な知識・スキルを身に付けていて、実践することができる。

【自立した生活者としての教養】

・自立した生活者として、自他の生活を向上・充実させるために必要な知識と教養を身に付けている。

② 汎用的技能

【情報活用能力】

・情報活用能力を身に付け、求められていることを的確に表現することができる。

【情報を共有し判断する力】

・適切に情報を共有することができ、それをもとに自ら判断し、行動することができる。

③ 態度・志向性

【協働して学ぶ姿勢】

・集団の中での役割を見出し、協働して自らを高める態度を身に付けている。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【学んだことを活用する力】

・問題に気づき、自ら設定した課題に学んできたことを活用することができる。

3 生活学科生活学専攻デザイン表現コース

① 知識・技術・理解

【美しく生きる力】

・衣・食・住に関する基本的知識および技術を身に付けていて、美意識を持って生活することができる。

【専門的知識と技術】

・表現手法の特徴や素材の特性に関する専門的知識および技術を身に付けている。

② 汎用的技能

【考えて伝える力】

・目的や状況に応じて手順や手法を十分吟味し、明確な意図を持って適切に表現することができる。

【気づき受け取る力】

・小さな工夫・変化・差異に気付く観察力を持ち、相手の意図を理解することができる。

【実務能力】

・実務能力と情報活用能力を身に付けていて、情報化の進展に主体的に対応することができ、社会生活および職業生活を豊かにすることができる。

③ 態度・志向性

【学びに向き合う力】

・自らモチベーションを高めることができ、自己の成長を社会に役立てようとする姿勢を身に付けている。

【協働して挑戦する姿勢】

・挑戦する心を持ち、自らの働きかけによって周囲と協働し、課題を解決することができる。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【豊かさを創造する力】

・豊かな表現力と感性を発揮して、生活に潤いを与え、新しい時代における生活と心の豊かさの創造に寄与することができる。

4 生活学科こども学専攻

① 知識・技術・理解

【保育・教育の基礎理解】

・保育・教育の基礎となる理論や考え方を理解している。

【子ども理解】

・保育や教育の対象について、多角的に理解している。

【保育・教育の実践力】

・保育・教育の実践力を身に付けている。

【保育・教育の職務理解】

・保育者の職務を多面的に理解している。

② 汎用的技能

【企画力・観察力・実行力】

・実践的な場に立って、子どもをよく観察して、提供すべき手立てを企画し実行する力を身に付けている。

③ 態度・志向性

【探究心と自己研鑽力】

・広く社会や時代の変化に目を向けて、子ども理解を深め、保育者の課題をつねに探究し努力する姿勢が身に付いている。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【こどもの未来を創造する力】

・保育者として次世代を担う子ども達の健やかな育ちを支援するための思考力と対話力を身に付けている。

5 生活学科食物栄養専攻

① 知識・技術・理解

【基盤知識】

・栄養士の専門性を修得するために必要な科学に関する基礎知識を身に付けている。

【専門知識・技術と理解】

・栄養士の専門性に関する幅広い知識と技能を身に付けている。

【栄養士業務の実践力】

・栄養士の業務内容と職務を理解して実践することができる。

② 汎用的技能

【情報を収集、整理して伝える力】

・栄養士業務に必要な情報を整理してプレゼンテーションする能力が身に付いている。

③ 態度・志向性

【協働する姿勢】

・食に関する業務に主体性と責任感をもって協働して取り組む姿勢が身に付いている。

【学び続ける力】

・食に関する興味関心を持ち続け、理解を深めて努力する姿勢が身に付いている。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【食を通じて社会に尽くす力】

・社会における食に関する様々な課題を見出し、解決することができる。

6 英語科

① 知識・技術・理解

【多言語理解】

・多言語についてその言語的特徴を理解し、それを使って自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け入れたりすることができる。

【実践的コミュニケーション能力】

・実践的な英語コミュニケーション能力が身に付いており、生活や仕事で活用できる。

【異文化理解】

・世界の多様な文化について幅広く理解し、偏見なく受け入れて世界の人々と共に生きていくことができる。

② 汎用的技能

【問題解決力】

・国内外の諸問題に関心を持ち、その解決に向けて調査研究をして、その結果を英語で発信することができる。

【グローバルに通用する論理展開】

・多様な考え方や価値観を受容し、グローバルに通用する論理の展開ができる。

【情報・実務能力】

・専門的な情報活用能力や実務能力を身に付け、グローバルな職場環境に対応できる。

③ 態度・志向性

【豊かな社会性】

・挑戦する心を持ち、互いの良さを生かして協働し、高め合うことができる。

【学ぶ意欲・気力】

・生涯にわたって学び続け、絶えず自己を研ぎ、向上させようとする探求心を有している。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【国際的センスと社会への貢献】

・統合的な知識・技能を身に付け、豊かな人間性と国際的センス及び実践的英語力によって、地域社会及び国際社会に貢献することが期待できる。

◇卒業認定に関する実施状況

2月末に卒業判定会を開催している。

卒業判定のための資料として、卒業認定・学位授与の方針に基づき配置した科目の到達目標に対する到達度を計った成績評価により認定した学生別の修得単位数一覧、学生別 GPA・GPA の分布状況を配布している。

なお、卒業要件は、学則第 12 条に総合人間科目及び専門教育科目から合計 62 単位以上を修得しなければならないと規定している。このことを確認した上で学長が卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

公式サイトで学内外に公表
<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|---------------|
| 学校名 | 鹿児島純心女子短期大学 |
| 設置者名 | 学校法人鹿児島純心女子学園 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R03report.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R03report.pdf |
| 財産目録 | https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R03report.pdf |
| 事業報告書 | https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R03report.pdf |
| 監事による監査報告(書) | https://www.k-junshin.ac.jp/gakuen/pdf/R03report.pdf |

2. 事業計画(任意記載事項)

| | |
|------------------|--------------|
| 単年度計画(名称: _____) | 対象年度: _____) |
| 公表方法: _____ | |
| 中長期計画(名称: _____) | 対象年度: _____) |
| 公表方法: _____ | |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法: https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/assessment/ |
|---|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|---|
| 公表方法: https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/assessment/ |
|---|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 生活学科生活学専攻現代ビジネスコース |
| 教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「人材の養成及び教育研究の目的」で案内) |
| (概要) 次のとおり、「学科・専攻における人材の養成及び教育研究の目的に関する規程」に定めている。 生活学科生活学専攻現代ビジネスコースにおいては、現代社会における様々な課題と自律的なキャリア形成に必要な知識・技術・技能を教育研究の対象とする。 また、良識ある女性としての教養・態度と情報リテラシー等のビジネススキルを身に付け、地域社会の進展に柔軟かつ的確に対応できる人材の養成を目標とする。 |
| 卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内) |
| (概要) ① 知識・技術・理解 【現代のビジネス社会の理解】 ・絶えず変化する現代のビジネス社会に対応するために必要な基本的知識・スキルを身に付けている。 【専門的実務実践力】 ・専門的実務に必要な知識・スキルを身に付けていて、実践することができる。 【自立した生活者としての教養】 ・自立した生活者として、自他の生活を向上・充実させるために必要な知識と教養を身に付けている。 ② 汎用的技能 【情報活用能力】 ・情報活用能力を身に付け、求められていることを的確に表現することができる。 【情報を共有し判断する力】 ・適切に情報を共有することができ、それをもとに自ら判断し、行動することができる。 ③ 態度・志向性 【協働して学ぶ姿勢】 ・集団の中での役割を見出し、協働して自らを高める態度を身に付けている。 ④ 統合的な学習経験と創造的思考力 【学んだことを活用する力】 ・問題に気付き、自ら設定した課題に学んできたことを活用することができる。 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内) |
| (概要) |

- ① 知識・技術・理解
- ・知識・技能を段階的に身に付けさせるために、科目の量と質のバランスを考慮して、体系的に教育課程を編成する。
 - ・変化するビジネス環境・経営環境に柔軟に対応することができるよう、現代的課題に関する基本的な知識を身に付けさせる。
 - ・キャリア選択に応じて専門的実務に必要な知識・スキルを修得させ、自ら活用できるだけでなく、支援・指導できるレベルにまで高めることを意識して教育課程を実施する。
 - ・社会生活を充実させ、その環境の改善に働きかける力を高めるために、良識ある女性としての教養を培う科目を配置する。
- ② 汎用的技能
- ・キャリア選択の幅を広げるために、幅広い業務に対応できる基本的な知識とビジネススキルを修得させ、社会と自分を知る力を養う。
 - ・1年次には、ICTの基本知識・スキル・情報倫理・セキュリティ等を学修する科目を配置し、思考力・判断力・表現力を高める。
 - ・2年次には、ICTを活用し、情報収集・分析・編集・表現・発信を創意工夫して、実践的な課題に取り組む科目を配置する。
- ③ 態度・志向性
- ・自己管理力・学びの継続力を高めることを意識して、科目を配置し、実施する。
 - ・他者と協働して学ぶ姿勢を修得させるため、チームとしての活動の場を積極的に活用する。
- ④ 統合的な学習経験と創造的思考力
- ・状況を適切に判断し、課題の設定とその解決に取り組む演習および実習を行い、多様な職業能力の基盤となる課題発見・解決力を高める

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

- ① 知識・技術・理解
- ・幅広い知識と実務能力を身に付け、ビジネス社会で活躍することを希望する人。
- ② 汎用的技能
- ・基礎的な文章読解力、文章表現力を備えている人。
 - ・他者の意見を素直に聞き、自分の考えを相手に伝えようとする意思を持つ人。
- ③ 態度・志向性
- ・自分を磨こうとする意志を持つ人。

| |
|--|
| 学部等名 生活学科生活学専攻デザイン表現コース |
| <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「人材の養成及び教育研究の目的」で案内)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>次のとおり、「学科・専攻における人材の養成及び教育研究の目的に関する規程」に定めている。</p> <p>生活学科生活学専攻デザイン表現コースにおいては、伝統的手法と現代の技術の融合によって、生活と心を豊かにする「用と美」の創造を教育研究の対象とする。</p> <p>また、周囲と協働し、探求し、創意工夫を重ねて、新たな価値の創造に挑戦し続ける人材の養成を目標とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)</p> |
| <p>① 知識・技術・理解</p> <p>【美しく生きる力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣・食・住に関する基本的知識および技術を身に付けていて、美意識を持って生活することができる。 <p>【専門的知識と技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現手法の特徴や素材の特性に関する専門的知識および技術を身に付けている。 <p>② 汎用的技能</p> <p>【考えて伝える力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や状況に応じて手順や手法を十分吟味し、明確な意図を持って適切に表現することができる。 <p>【気付き受け取る力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな工夫・変化・差異に気付く観察力を持ち、相手の意図を理解することができる。 <p>【実務能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実務能力と情報活用能力を身に付けていて、情報化の進展に主体的に対応することができ、社会生活および職業生活を豊かにすることができる。 <p>③ 態度・志向性</p> <p>【学びに向き合う力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らモチベーションを高めることができ、自己の成長を社会に役立てようとする姿勢を身に付けている。 <p>【協働して挑戦する姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挑戦する心を持ち、自らの働きかけによって周囲と協働し、課題を解決することができる。 <p>④ 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <p>【豊かさを創造する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな表現力と感性を發揮して、生活に潤いを与え、新しい時代における生活と心の豊かさの創造に寄与することができる。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)</p> |

(概要)

① 知識・技術・理解

- ・多面的な尺度で“美しさ”を考えさせることを意識して、教育課程を実施する。
- ・生活の基本である衣・食・住に関する基本的知識および技術を修得させる。
- ・創造的な表現の基礎とするために、基本的知識や表現手法を理解させ、基礎技能を修得させる。
- ・意図に応じて適切に材料や用具を扱うために、その特性を十分に理解させる。
- ・地域社会や伝統的文化のもつ意味や美しさ、歴史的・社会的背景等の学修を通じて、地域理解を深める。

② 汎用的技能

- ・思考力や判断力を高めるために、主題に沿った表現方法を徹底して追及し、創造的な表現の構想を練る機会を設ける。
- ・受け手のことを十分に意識したうえで、手順や手法を吟味し、工夫して表現する能力を育成する。
- ・演習科目や実習科目では、互いの工夫や意図に気付き、認め、理解を深めるために、成果物についてのプレゼンテーションを実施することを原則とする。
- ・コンピュータ等を活用した演習を通して、実社会で求められる実践的スキルを修得させるとともに、情報モラルの育成を図る。
- ・検定対策や資格取得課程を通して、社会人として必要な実務能力を修得させる。また、キャリア選択の状況に応じて必要な知識やスキルを身に付けさせる。

③ 態度・志向性

- ・多くのことに挑戦し、その経験が将来の糧となる学生生活を送ることができるよう、適切な初年次教育を行う。
- ・1年次は個人の能力の向上、2年次はチーム内で個性を活かす工夫が求められるよう、教育課程を編成・実施する。
- ・周囲の評価を前向きに受け止めて的確に自己を評価する能力を磨き、課題を見つけ、自らを高め続けようとする姿勢を身に付けさせる。
- ・体験的な社会参加型学習を通して、社会の一員としての使命感や責任感を養う。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・講義科目と課題解決型学習との関係を念頭に置き、その学びが相互に作用して強化・定着・修正されるよう工夫する。
- ・複数分野を学ぶことによって、発想が豊かになることに気付けるよう配慮して、科目間の連携を図る。
- ・公募展や舞台発表など、学内外のイベントを積極的に活用して、得られた評価を改善につなげる力を養う。また、その集大成として卒業制作展を実施する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

① 知識・技術・理解

- ・日本および諸外国の服飾文化や美術・工芸に興味・関心があり、表現力を高め、美的感性を磨く意欲がある人。

② 汎用的技能

- ・基礎的な文章力や読解力を身に付けていて、自分の考えを言葉で伝えることがで

きる人。

- ・互いの考えや個性を理解し、尊重しようとする人。

③ 態度・志向性

- ・目標達成に向けてあきらめずに挑戦する人。

学部等名 生活学科こども学専攻

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「人材の養成及び教育研究の目的」で案内)

(概要)

次のとおり、「学科・専攻における人材の養成及び教育研究の目的に関する規程」に定めている。

生活学科こども学専攻においては、「子ども」と「子どもを取り巻く環境」を学際的に教育研究の対象とする。

また、「いのち」を尊ぶ心を育むと共に、子どもの健全な成長・発達を支援するための知識・技能、及び子育て支援に関する知識・技能を学修し、地域社会で貢献できる保育士・幼稚園教諭などの保育者養成を目標とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

① 知識・技術・理解

【保育・教育の基礎理解】

- ・保育・教育の基礎となる理論や考え方を理解している。

【子ども理解】

- ・保育や教育の対象について、多角的に理解している。

【保育・教育の実践力】

- ・保育・教育の実践力を身に付けている。

【保育・教育の職務理解】

- ・保育者の職務を多面的に理解している。

② 汎用的技能

【企画力・観察力・実行力】

- ・実践的な場に立って、子どもをよく観察して、提供すべき手立てを企画し実行する力を身に付けている。

③ 態度・志向性

【探究心と自己研鑽力】

- ・広く社会や時代の変化に目を向けて、子ども理解を深め、保育者の課題をつねに探究し努力する姿勢が身に付いている。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

【こどもの未来を創造する力】

- ・保育者として次世代を担う子ども達の健やかな育ちを支援するための思考力と対話力を身に付けている。

| |
|---|
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>① 知識・技術・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・螺旋構造の学び(学び、深め、自分のものにするという過程)を支援する教育課程を構成し、保育者モデルとして示される「反省的实践家」を養成する。 ・次世代を担う子ども達の健やかな育ちを支援できる保育者として、「子どもの最善の利益」を第一に考えることのできる価値観を養う。 ・対人援助の現場である保育の現場で直接活かせる技術力を養う。 <p>② 汎用的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者と直接関わる機会を積極的に取り入れた科目を設置し、コミュニケーション・スキルやマナーを養う。 ・子どもや保護者と直接関わる際に発生する問題に対し、適切に対応できる力を養う。 <p>③ 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者としての課題を探究し続ける自己学習力と論理的思考能力を養う。 ・保育者の責務を自覚し、真摯に学び続けようとする姿勢を涵養する。 <p>④ 統合的な学習経験と創造的思考力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて考える力、根拠に基づき判断する力を習得させる。 ・こども学の学びを皆で分かち合うことで、多面的なものの見方を養う。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>① 知識・技術・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な文章読解力・表現力等、高校卒業程度の学力を身に付けている人。 ・保育の専門知識・技能を発展的に学ぶ意欲を持った人。 ・他者と協調して地域社会に貢献する希望を持った人。 <p>② 汎用的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」を大切にする心を持ち、子どもの成長と発達に関する知識・技術の習得に強い意欲を持つ人。 <p>③ 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人々と協働して学ぶ姿勢がある人。 ・実習・演習などに積極的に取り組む意欲のある人。 |

| |
|---|
| <p>学部等名 生活学科食物栄養専攻</p> |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「人材の養成及び教育研究の目的」で案内)</p> |
| <p>(概要) 次のとおり、「学科・専攻における人材の養成及び教育研究の目的に関する規程」に定めている。 生活学科食物栄養専攻においては、健康を支える食及び食に関わる現代社会の様々な課題を教育研究の対象とする。 また、食に関する総合的、体系的な知識と技術を学修し、郷土の食文化や食育に関する専門性を深めて、食のエキスパートとして奉仕の心を持って地域社会に貢献できる栄養士・栄養教諭の養成を目標とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)</p> |
| <p>① 知識・技術・理解 【基盤知識】 ・栄養士の専門性を修得するために必要な科学に関する基礎知識を身に付けている。 【専門知識・技術と理解】 ・栄養士の専門性に関する幅広い知識と技能を身に付けている。 【栄養士業務の実践力】 ・栄養士の業務内容と職務を理解して実践することができる。</p> <p>② 汎用的技能 【情報を収集、整理して伝える力】 ・栄養士業務に必要な情報を整理してプレゼンテーションする能力が身に付いている。</p> <p>③ 態度・志向性 【協働する姿勢】 ・食に関する業務に主体性と責任感をもって協働して取り組む姿勢が身に付いている。 【学び続ける力】 ・食に関する興味関心を持ち続け、理解を深めて努力する姿勢が身に付いている。</p> <p>④ 統合的な学習経験と創造的思考力 【食を通じて社会に尽くす力】 ・社会における食に関する様々な課題を見出し、解決することができる。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)</p> |

(概要)

- ① 知識・技術・理解
 - ・専門教育科目群（社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営、その他）を配置して、栄養士への理解を深め専門知識と技術を修得する。
 - ・栄養教諭と教職に関する科目を配置して、栄養教諭に必要な専門知識と技術を修得する。
 - ・郷土の食材や料理への理解を深め関連する専門知識と技術を修得する。
 - ・学外実習を配置して、社会人としての資質を養成し栄養士への理解を深める。
- ② 汎用的技能
 - ・実験・実習・演習科目を配置して、実践的な思考力・判断力・表現力を養う。
 - ・コンピュータ等を活用した演習を配置して、栄養士業務などの実社会で求められる情報活用能力を高めるとともに、情報モラルの育成を図る。
- ③ 態度・志向性
 - ・実習演習科目を配置して、グループワークを通じて協働する姿勢を養う。
 - ・多様な専門教育科目を通じて、学びを継続する意義と専門性の深さを理解する。
- ④ 統合的な学習経験と創造的思考力
 - ・現代社会の食に関する様々な課題について取り上げ、理解を深めるとともに課題解決に向けた専門性を修得する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

- ① 知識・技術・理解
 - ・食と栄養、健康に関心があり、栄養士の専門性に関する幅広い学習に取り組む意欲を持っている人。
- ② 汎用的技能
 - ・国語の基礎力や数学の基礎計算力を身に付けており、さらに専門性を深める意欲のある人。
- ③ 態度・志向性
 - ・協調性を備え主体的に学び続ける姿勢を身に付ける意欲のある人。
 - ・実験実習などに耐えられる体力と精神力、忍耐力を備えた人。

| |
|--|
| <p>学部等名 英語科</p> |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「人材の養成及び教育研究の目的」で案内)</p> |
| <p>(概要) 次のとおり、「学科・専攻における人材の養成及び教育研究の目的に関する規程」に定めている。 英語科においては、実践的な英語コミュニケーション能力やグローバルな職場環境にも対応できる実務能力の育成を教育研究の対象とする。 また、英語学習寮での生活や海外研修・留学等を通して、英語圏における文化・習慣を学び国際人としての人間性を養い、英語能力を生かした職業人の養成を目標とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)</p> |
| <p>① 知識・技術・理解 【多言語理解】 ・多言語についてその言語的特徴を理解し、それを使って自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け入れたりすることができる。 【実践的コミュニケーション能力】 ・実践的な英語コミュニケーション能力が身に付いており、生活や仕事で活用できる。 【異文化理解】 ・世界の多様な文化について幅広く理解し、偏見なく受け入れて世界の人々と共に生きていくことができる。</p> <p>② 汎用的技能 【問題解決力】 ・国内外の諸問題に関心を持ち、その解決に向けて調査研究をして、その結果を英語で発信することができる。 【グローバルに通用する論理展開】 ・多様な考え方や価値観を受容し、グローバルに通用する論理の展開ができる。 【情報・実務能力】 ・専門的な情報活用能力や実務能力を身に付け、グローバルな職場環境に対応できる。</p> <p>③ 態度・志向性 【豊かな社会性】 ・挑戦する心を持ち、互いの良さを生かして協働し、高め合うことができる。 【学ぶ意欲・気力】 ・生涯にわたって学び続け、絶えず自己を研ぎ、向上させようとする探求心を有している。</p> <p>④ 統合的な学習経験と創造的思考力 【国際的センスと社会への貢献】 ・統合的な知識・技能を身に付け、豊かな人間性と国際的センス及び実践的英語力によって、地域社会及び国際社会に貢献することが期待できる。</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> |

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

① 知識・技術・理解

- ・英語、日本語の言語的特徴やその指導法について学習するとともに、その他の複数の外国語についてそれぞれの特徴を概略的に学んだ後、興味を持った言語について選択し、基本的なコミュニケーション能力を育成する。
- ・実践的な英語コミュニケーション能力を身に付けるために、体験型英語プログラムを提供する。英語で行われる授業を数多く配置し、アクティブラーニングによる少人数制参加型授業や習熟度別クラス編成を通して、使える英語を育成する。
- ・1年次末に実施する4週間のカナダ・オーストラリア・イギリス研修や、外国人学生の受け入れ及び留学体験等や世界地域研究等の学習を通して、郷土や我が国の伝統・文化を伝えるとともに、異文化に対する理解を深め、共生していくことを学び、グローバルコミュニケーションのできる人物を養成する。

② 汎用的技能

- ・国内外の様々な問題を取り上げ、その解決策を考え議論し発表することを通して、問題解決力を高める。
- ・グローバルな社会で通用するコミュニケーション力を駆使しながら、外国の人々を相手に交渉できる論理展開を学び、実践的能力を高める。
- ・コンピュータ等を活用した演習を通して、実社会で求められる実践的情報活用能力を高めると共に、情報モラルの育成を図る。
- ・社会人として必要なマナー及びグローバルなビジネス社会に対応できる実務能力の育成を目指し、各種資格取得関係科目や検定対策科目を開講する。

③ 態度・志向性

- ・1年生全員が英語学習寮で外国人教員を交えた協同生活をするを原則とし、単位を認定する。寮での集団生活や英語ミュージカルなどの体験型グループ学習を通して、他と協働し、挑戦しようとする姿勢などの人間的成長を図る。
- ・インターンシップや国際ボランティア活動等に積極的に参加し、実社会が求める人物像を具体的に感じ取り、自らの生き方に生かすとともに、生涯を通じて学びを継続させる意欲や、企画力・表現力・行動力、さらには逞しい気力を磨く。

④ 統合的な学習経験と創造的思考力

- ・英語ミュージカルや JEB プロジェクト等の統合的英語学習プログラムや英語によるディスカッション、ディベート等により、国際的センスや創造的な思考力を高める。
- ・国際交流ボランティア等で、学内外のイベントに積極的に参画し、統合的な学習経験を積み、地域への貢献を図る。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/>
本ページの「履修関係」の「三つの方針」で案内)

(概要)

① 知識・技術・理解

- ・英語が好きで、国語と英語の基礎学力があり、更に英語力を伸ばしたいと思っている人。
- ・異文化を理解し、実践的な英語力を身に付け、国際社会と日本との架け橋になりたいと考えている人。

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・英語以外の外国語にも興味があり、多言語の能力を付けたいと思っている人。 |
| <p>② 汎用的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人と積極的にコミュニケーションを取り、協力して問題解決を図ろうとする人。 ・社会で必要とされる職業的知識と専門的スキルを身に付けることに意欲のある人。 |
| <p>③ 態度・志向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語を学ぶ意欲があり、主体的に英語力を高める心構えと気力・体力がある人。 ・異文化間コミュニケーションへの興味関心が高く、かつ地域社会の活性化にも貢献する意欲がある人。 |

②教育研究上の基本組織に関すること

| |
|--|
| <p>公表方法： https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/joho/ 本ページの「2 学科構成等について」で案内</p> |
|--|

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|---|--------|--|-----|----|----|-----------|-----|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 2人 | — | | | | | 2人 |
| 生活学科 | — | 10人 | 13人 | 3人 | 0人 | 0人 | 26人 |
| 英語科 | — | 4人 | 2人 | 4人 | 0人 | 0人 | 10人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | | 計 |
| 0人 | | 43人 | | | | | 43人 |
| 各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等) | | 公表方法：公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/cust-staff/ | | | | | |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| 自己点検・評価委員会、教務委員会やカリキュラム委員会を中心となって、FD研修会、公開授業、授業アンケート等を実施している。 | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
|------|-------------|-------------|-------|-------------|--------------|-------|-----------|-----------|
| 生活学科 | 210人 | 140人 | 66.7% | 420人 | 259人 | 61.7% | 0人 | 0人 |
| 英語科 | 60人 | 34人 | 56.7% | 120人 | 78人 | 65.0% | 0人 | 0人 |
| 合計 | 270人 | 174人 | 64.4% | 540人 | 337人 | 62.4% | 0人 | 0人 |
| (備考) | | | | | | | | |

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

| 学部等名 | 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|------|----------------|----------------|-------------------|----------------|
| 生活学科 | 125人 (100%) | 9人 (7.2%) | 112人 (89.6%) | 4人 (3.2%) |
| 英語科 | 61人 (100%) | 4人 (6.6%) | 50人 (82.0%) | 7人 (11.5%) |
| 合計 | 186人 (100%) | 13人 (7.0%) | 162人 (87.1%) | 11人 (5.9%) |

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

【主な進学先】

【編入学先】

鹿児島大学 教育学部 学校教育教員養成課程 特別支援教育コース
 関西外国語大学 英語国際学部 英語国際学科
 南山大学 国際教養学部 国際教養学科
 明治学院大学 文学部 芸術学科
 東洋英和女学院大学 国際社会学部 国際コミュニケーション学科
 城西国際大学 メディア学部 メディア情報学科 映像芸術コース(2名)
 鹿児島純心女子大学 看護栄養学部 健康栄養学科(5名)
 鹿児島純心女子大学 人間教育学部 教育・心理学科

【編入学先】

インターナショナル エア アカデミー
 早稲田外語専門学校総合英語学科ベーシックイングリッシュコース
 ワタナベエンターテイメントカレッジ
 ILSC-Montreal

【主な就職先】

【公務員】

鹿児島県公立学校教員(中学校英語)、国家公務員一般職(労働局)、鹿児島県職員(一般事務)、垂水市職員、航空自衛隊一般曹候補生3名 ----- 計7名

【航空関係】

南国交通航空事業部 4 名 ----- 計 4 名

【金融・保険関係】

鹿児島銀行 16 名、南日本銀行 6 名 ----- 計 22 名

【ホテル関係】

星野リゾート、ふじリゾート ----- 計 2 名

【JA関係】

JA 鹿児島県連 2 名 ----- 計 2 名

【その他の企業等】

京セラ国分 3 名、京セラ川内、南国殖産 2 名、山形屋、健康家族、サナス、フォーバル 2 名、明石屋、アルビオン、ラルフローレン、窪田織物、ビーザ・ワン、鹿児島トヨタ自動車、南九州日野自動車、ホンダプリモ小見川、ネクステージ、ソフトバンク、山形屋ストア、マナーハウス島津重富荘、中越物産、小園硝子商会、ファルマコム、エアイー、まきの商店、イタックス、TBCグループ、リック、JAPAN HOME WAND、日立自動車交通、スタジオメディア、プリングアップ史、大口明光学園、イッティージャパン、鹿児島県自動車整備振興会、かごしま森林組合 ひおき支所、霧島市立医師会医療センター、米盛病院、相良病院 2 名、今村総合病院、アクラス中央病院、鹿児島みなみ眼科、うのき眼科 2 名、霧島眼科、日高内科クリニック、鹿児島セントラル歯科、参天会、常盤会 2 名、日置福社会、スマイルワークスペースコケット、鹿児島国道事務所、榕城小学校(栄養教諭・期付)、和泊小学校(栄養教諭・期付)

【栄養士関係】

国保水俣市立総合医療センター、愛育病院 2 名、植村病院、純心幼稚園、青山幼稚園、城山保育園 2 名、恵愛保育園、うおみこども園、参天会、日清医療食品 12 名

【幼稚園教諭・保育士関係】

鹿児島県社会福祉事業団、鹿児島市社会事業協会、鹿児島竜谷学園 2 名、谷山善き牧者幼稚園、玉里善き牧者幼稚園、聖母幼稚園、カトリック・カリタス幼稚園、大谷幼稚園、錦城幼稚園 2 名、紫原幼稚園 2 名、辻ヶ丘幼稚園 2 名、太陽の子幼稚園、めぐみ幼稚園、星ヶ峯幼稚園、はなぶさ幼稚園、加世田しらうめ幼稚園、コスモス幼稚園・こすもす保育園 2 名、樫の実幼稚園、ちはなこども園 2 名、おひさまこども園 2 名、桜ヶ丘こども園、さくらの里こども園 2 名、心悅認定こども園、ひばりこども園、恵愛保育園、白菊保育園・ユズリ葉の杜保育園、おおくすの杜保育園、山田保育園、根占保育園・つじみ保育園、新西方保育園、どんぐりの森保育園、旭ヶ丘学園、ポピンズ、指定児童発達支援センタークラセ、放課後等デイサービスすばる

(備考)

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|--|----------------|------------------|---------------|----------------|-------------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業生数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| 生活学科 | 132人 (100%) | 124人 (93.9%) | 1人 (0.8%) | 7人 (5.3%) | 0人 (0%) |
| 英語科 | 64人 (100%) | 61人 (95.3%) | 0人 (0%) | 3人 (4.7%) | 0人 (0%) |
| 合計 | 196人 (100%) | 185人 (94.4%) | 1人 (0.5%) | 10人 (5.1%) | 0人 (0%) |
| (備考) | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| (概要) |
|--|
| ① 教務課及びカリキュラム委員により 10 月までに「シラバス作成要領」を見直し、改善案をカリキュラム委員会に提案して、新年度のシラバス作成のためのマニュアルを完成させる。 |
| ② 11 月又は 12 月の教授会において、カリキュラム委員会で承認された「シラバス作成要領」を報告・配布し、シラバス作成を依頼。 |
| ③ 2 月、シラバスの第三者チェックを実施。 |
| ④ 3 月中旬までにシラバスの第三者チェックで指摘された箇所を訂正し、次年度入学生のシラバスを学内外に公開する。 |

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| (概要) |
|---|
| 学修成果に係る評価及び卒業認定に当たっての基準に関する取組概要は次のとおりである。 |
| ① ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ツリーを策定し、関連科目を配置する。 |
| ② 各ディプロマ・ポリシーのもとに配置された科目の到達目標を設定し、その到達目標に対する到達度を計るための評価の方法等を定めてシラバスに記載する。 シラバスに記載した成績評価方法及び成績評価基準は単位認定規程に基づいている。 |
| ③ ①及び②については、学生便覧等で学生に案内するほか、初年次教育科目「アカデミックリテラシー」の中で説明する。 |
| ④ 以上の取組により学期末に単位認定試験を実施し、単位認定を行っている。 単位認定試験実施後、科目担当者は自身が付けた学生の成績評価と履修者の自己評 |

| <p>価を比較、また、授業アンケートの結果を参考に授業改善を図る。各学科・専攻・コースは、ナンバリング、科目の水準及び成績評価をもとに科目間の成績評価基準の平準化に向けて検証を実施する。</p> | | | | |
|---|--------|---|------------------------|---------------------------|
| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる 単位数 | G P A制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上 限 (任意記載事項) |
| 生活学科 | 生活学専攻 | 62 単位 | ㊟・無 | 25 単位 |
| | こども学専攻 | 62 単位 | ㊟・無 | 25 単位 |
| | 食物栄養専攻 | 62 単位 | ㊟・無 | 25 単位 |
| 英語科 | | 62 単位 | ㊟・無 | 25 単位 |
| G P Aの活用状況 (任意記載事項) | | 公表方法：公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/student/ 本ページの「履修関係」の「GPAの算出方法」で案内 | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法：公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/joho/ 本ページの「9 入学者数、学生数、留学者数、卒業者数、資格取得・検定合格状況、学位授与数、就職者数について」及び「統計情報」で案内 | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| |
|---|
| <p>公表方法：公式サイトで学内外に公表 https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/about/joho/ 本ページの「7 教育環境について」で案内</p> |
|---|

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|------|-----------------|-------------|-----------|-----------|---|
| 生活学科 | 生活学専攻 こども学専攻 | 415,000 円 | 200,000 円 | 510,000 円 | 実験実習費 65,000 円 教育充実費 420,000 円 図書費 25,000 円 |
| | 食物栄養専攻 | 415,000 円 | 200,000 円 | 525,000 円 | 実験実習費 80,000 円 教育充実費 420,000 円 図書費 25,000 円 |
| 英語科 | | 440,000 円 | 200,000 円 | 499,000 円 | 実験実習費 44,000 円 教育充実費 430,000 円 図書費 25,000 円 |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|---|
| <p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 修学支援について、次の取組を実施している。</p> <p>① 全学科・専攻・コースにおいて、入学試験合格者に対する「入学前教育」と「入学前ガイダンス」を実施し、大学での学びに対する理解を図る。</p> <p>② カリキュラムにおいて、新入生全員が履修する「アカデミックリテラシー」を開講</p> |
|---|

| |
|--|
| <p>し、同科目をとおして初年次教育を実施</p> <p>③ 入学時アンケート、進級時アンケート結果等に基づくクラス担任による面談の実施。</p> <p>④ 学習力・編入学支援委員会を設置し、補習教育等の修学支援を実施</p> <p>⑤ ジェネリックスキルの客観的把握のため PROG テストの導入し検証データとして活用</p> |
| <p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>① カリキュラムにおいて、「キャリアガイダンス」「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「ライフデザイン」等のキャリア教育科目を開講</p> <p>② キャリア支援課を設けて専任スタッフ3名を配置し、進路選択に係る支援を実施</p> <p>③ 進学相談室を設けて、編入学のための試験対策等を支援</p> |
| <p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>① 入学前の相談体制を募集要項や公式サイトで案内</p> <p>② 学生便覧に心身の健康等に係る相談窓口を掲載。また、入学式後のオリエンテーションにおいても紹介。</p> <p>③ 「障がいのある学生への支援に関する基本方針」「障がいのある学生への支援程」「障がいのある学生への支援委員会規程」を定め、組織的に支援を実施</p> |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

| |
|---|
| <p>公表方法：公式サイトで学内外に公表</p> <p>https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/structure/</p> <p>本ページから「各学科・専攻・コース別」に案内</p> |
|---|

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|------|---------------|
| 学校名 | 鹿児島純心女子短期大学 |
| 設置者名 | 学校法人鹿児島純心女子学園 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|-----|-----|-----|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 62人 | 59人 | 64人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 27人 | 27人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 19人 | 23人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 16人 | -人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 0人 |
| 合計（年間） | | | | 64人 |
| (備考) | | | | |

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | | |
|---|---------|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 人 | 0人 | 0人 |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下) | 人 | 0人 | 0人 |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | 人 | 0人 | 0人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 人 | 0人 | -人 |
| 計 | 人 | 0人 | -人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | | |
|---------|---|---|----|-----|----|
| 年間 | 人 | 前半期 | 0人 | 後半期 | 0人 |
| | | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 0人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |

| |
|------|
| (備考) |
|------|

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数の 6割以下 (単位制によらない専門学校にあ っては、履修科目の単位時間数が 標準時間数の6割以下) | 人 | 0人 | 0人 |
| GPA等が下位4分の1 | 人 | -人 | 0人 |
| 出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況 | 人 | -人 | 0人 |
| 計 | 人 | -人 | 0人 |

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。